

供用開始が間近に迫る 三遠南信自動車道 佐久間道路

去る12月25日、浜松市えんてつホールにおいて、三遠南信自動車道（佐久間道路）開通に伴う祭典実行委員会主催の「三遠南信地域シンポジウム ～三遠南信自動車道による交流・連携の深化～」が開催され、出席し聴講しました。同シンポジウムの開会挨拶では、鈴木浜松市長が「三遠南信自動車道佐久間道路供用開始は、31年3月2日に決定した」と開業日について言及しました。



「三遠南信地域シンポジウム」会場（浜松市中区えんてつホール）
（リニア対策課撮影）

1. 山あいになららしい道路が姿を表わす

今回浜松市の会場に向かうに際し、国道151号線を南下しました。途中東栄町から473号線に入り、大千瀬川に沿って走るとやがて目の前に新しい橋梁・構造物が目に入ります。佐久間道路の起点・終点の佐久間川合インターと東栄インターとの中間にある浦川インター（以下IC）です。この地区は東栄町とも佐久間地区とも狭隘な道路による連絡で、自動車のすれ違いが怖い箇所が大部分であり、地区住民にとって今後隣地区への移動で劇的な速達性・快適性がもたらされることを実際の下道（国道）を走って実感できました。



浦川インターチェンジ
インター施設は写真右手に設置される
（リニア対策課撮影）

浦川地区を抜け、またやや狭い山中の道路を走ると、開けた場所に三遠南信道の道路敷やインターチェンジのランプウェイなどがまとまって目に入りました。従来「佐久間IC」の仮称でしたが、インターチェンジが設置されるのは厳密には川合地区のようで、正式名称は「佐久間川合IC」となります。インターは、本体はほぼ完成、周辺の土工事に追い込みがかかっている印象でした。



完成目指して追い込み段階の佐久間川合インターチェンジ
（リニア対策課撮影）

2. 三遠南信自動車道建設の大きな1歩

三遠南信自動車道佐久間道路は、下図の通り、愛知県東栄町の東栄ICから浦川ICを経て佐久間川合ICまでの6.9kmとなります。事業着手が平成7年度、工事着手は平成20年度でした。区間には延長3,436m佐久間第1トンネル、同2,408mの佐久間第2トンネルの2本と4本の橋梁があり、地上部分が極めて短く工事が難航したことがうかがわれます。前述の通り、昨年12月19日、国交省中部地方整備局浜松河川国道事務所により本年3月2日の開通とインターチェンジの正式名称が記者発表されています。同事務所田中所長によると、これにより「本年度末には現道活用区間を含め55kmの供用となり、全体の約6割に達する」とのことです。

既に供用されている三遠南信道鳳来峡ICと東栄ICとの未開通区間は、各工区で工事が進められているのを151号沿道に見ることができますが、田中所長は「同区間の最長トンネルである三遠道路3号トンネル約3.5kmの掘削に取り組んでおり、東栄IC・鳳来峡IC間についてはもう少しお待ちいただきたい」とのことでした。

唯一の未事業化区間である佐久間川合IC～水窪間は、平成26年10月に環境影響評価に着手していましたが、30年11月環境アセスメントの公示が終了し、いよいよ事業化の目途が立ったと報告されました。

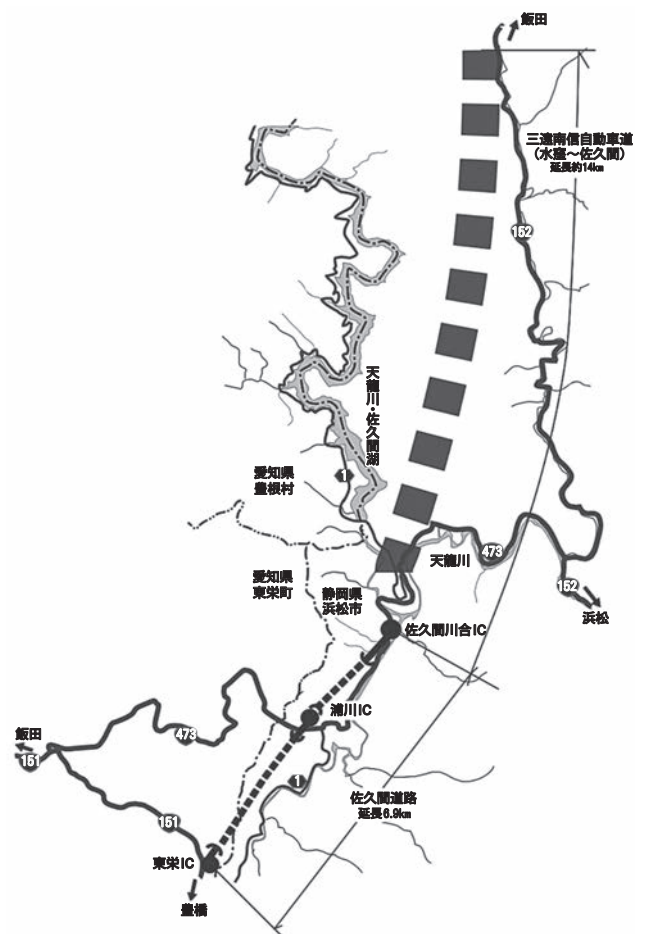
3. 三遠南信自動車道の全線開通、リニア時代への期待

南信州地域関連では、「青崩峠道路は、今年度中に調査坑から本坑掘削に着手」、「飯喬道路天龍峡IC・龍江IC間は、平成31年度の開通を予定」（田中所長）されています。

佐久間地区への訪問の際は、これまでかなりたいへんな道路状況でしたが、佐久間道路の開通により、訪問はかなり容易になります。また、佐久間地区から水窪地区へ向かう場合は、国道473号・152号を通行することになりますが、これもまた狭隘かつ雨量規制の伴う険峻な地形の中を通る道路で、水窪・佐久間間に高規格道路が開通すれば、既に工事中の青崩峠道路の供用と併せて佐久間地区・水窪地区と南信州地域との行き来は劇的に向上します。

田中所長は「管内の一般の方々に、三遠南信道が開通したときの自分の姿を妄想していただき、その声を寄せて貰っている」とのことでした。リニア開通に併せて三遠南信自動車道が全通して、佐久間地区・水窪地区、隣接する豊根村などこの県境一帯がリニア長野圏駅勢圏となり、行き来が頻繁になってこの辺りは南信州地域の一部のようになる…。この近辺を運転しながら、そのような妄想に耽りました。

愛知・静岡県境部の道路状況と三遠南信自動車道の概要



(当日配布資料を基にリニア対策課で作成)

(飯田信用金庫 地域サポート部 リニア対策課 加藤 修平)